

四日市市総合計画〔2011年度→2020年度〕

基本計画の検証 及び 新たな検討課題

基本的政策・重点的施策の総合評価 2

5つの基本目標

- ① 都市と環境が調和するまち 3
- ② いきいきと働ける集いと交流のあるまち 6
- ③ 誰もが自由に移動しやすい安全に暮らせるまち 10
- ④ 市民が支えあい健康で自分らしく暮らせるまち 14
- ⑤ 心豊かな“よっかいち人”を育むまち 18

【凡例】※ページ左側は、現総合計画における主な実績・成果、
 ページ右側は、次期総合計画策定に向けた主な検討課題 を記載しています。
 ○印は、前回お示した「69の重点的施策の検証」から整理した検討課題
 ☆印は、若手・中堅職員と政策推進監で構成する「分野別政策検討会議」で議論のあった検討課題

※なお、次期総合計画策定に向けた主な検討課題 については、
次期総合計画策定に向けて、様々な角度から、ご議論・ご意見をいただくことを予定しており、
現時点の内容をそのまま次期総合計画に記載するものではありません。

平成30年12月18日
四日市市 政策推進部 政策推進課

基本的政策・重点的施策の総合評価

基本目標	基本的政策	重点的施策		実施施策		総合評価							
		(数)		(数)		◎		○		△		—	
1 都市と環境が調和するまち	1 既成市街地や既存集落の有効活用	1 5	7	5 7	2 1	2 5	7	2 7	1 3	5	1	0	0
	2 農地・森林の保全		3		9		1		6		2		0
	3 多様な主体の連携による環境都市への展開		5		2 7		1 7		8		2		0
2 いきいきと働ける集いと 交流のあるまち	1 臨海部コンビナート地区の持続的活用と産業の振興	1 3	3	3 3	9	1 3	5	2 0	4	0	0	0	0
	2 四日市の魅力の再発見と滞在・体験型観光		3		1 0		4		6		0		0
	3 自律的な暮らしを支える買い物拠点の再生と地産地消		3		8		3		5		0		0
	4 生涯を通じた社会参加が可能な環境整備		4		6		1		5		0		0
3 誰もが自由に移動しやすい 安全に暮らせるまち	1 市民の暮らしを支える公共交通機関の利用促進	1 2	3	3 9	9	1 6	5	2 2	4	1	0	0	0
	2 地域を支える道路空間づくり		2		4		0		3		1		0
	3 産業と市民生活を支える港づくり		2		8		5		3		0		0
	4 市民と行政とで築く安全なまちづくり		5		1 8		6		1 2		0		0
4 市民が支えあい健康で 自分らしく暮らせるまち	1 安心して子どもを産み、育てられる社会に実現	1 4	4	8 4	2 2	2 4	7	6 0	1 5	0	0	0	0
	2 地域で安心して生活できる環境づくり		3		2 5		6		1 9		0		0
	3 子どもから高齢者まで元気で暮らせる健康づくり		3		1 6		9		7		0		0
	4 自分らしく暮らせるまちづくり		4		2 1		2		1 9		0		0
5 心豊かな“よっかいち人”を育むまち	1 自ら学ぶ力と豊かな心を持ち、たくましく生きるこどもの育成	1 5	5	6 7	3 5	1 7	9	4 5	2 4	3	0	2	2
	2 四日市ならではの文化の情報発信と活動の場づくり		3		9		1		6		2		0
	3 スポーツを通じた元気なまちづくりの推進		3		9		5		4		0		0
	4 コミュニティの維持・充実と生涯学習の推進		4		1 4		2		1 1		1		0
計		6 9		2 8 0		9 5		1 7 4		9		2	

< 総合評価の凡例 >

- ◎ 基本目標に向かって施策を十分に実施し、成果が上がっている。（成果が上がるのが確実である。）
- 基本目標に向かって施策をかなり実施し、成果が上がっているが、一部に課題も残っている。
- △ 基本目標に向かって施策を実施したが、成果が十分とは言えず、課題や改善点を残している。
- 基本目標に向かって施策を実施することができず、抜本的な見直しが必要である。

基本目標1 都市と環境が調和するまち

政策分野（土地利用・環境）

基本的政策1 既存市街地や既存集落の有効活用

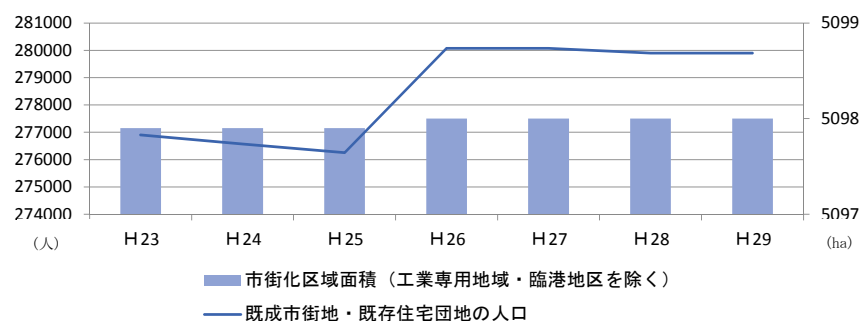
現総合計画における主な実績・成果

人口減少時代の到来・少子高齢化の進展などの日本社会の変容や地球規模の環境問題などにも資するよう、市街地の無秩序な拡大を抑制し、持続的なまちづくりを進める、コンパクトシティの考え方を根幹に置き、拠点駅周辺の整備や旧市街地の生活環境の向上、産業活動活性化に資するような臨海部空間の取り組みを進めました。

同時に、食料生産や環境保全、自然災害の防止など、多面的で重要な役割を担う農地や森林を保全するとともに、里山を支える集落の生活環境維持に取り組みました。

また、公園や道路と言った都市基盤の再整備や、この地域の主要機関道路となる北勢バイパスの整備推進に取り組みました。

（1）市街化区域の面積（工業専用地域・臨港地区を除く）と既存市街地・既存住宅団地の人口



（2）再整備された川原町駅（H29 高架化完了）



（3）整備が進む北勢バイパス（坂部トンネル）



次期総合計画策定に向けた主な検討課題

①暮らしの質を高めるコンパクトなまちづくり

- 公共交通網と連携しながら、都市機能を集約化
- 道路、公園、駅前広場などの生活に身近な公共空間の再編
- ☆空き地、空き家等の低未利用地を活用した都市空間の価値向上
- ☆上下水道施設等の計画的な維持・更新の推進
- ☆生産緑地等の都市農地保全とグリーンインフラによる市街地緑化の推進

②立地適正化計画を活用した「賑わいのある魅力的な中心市街地」の形成

- リニア開通を見据えた、近鉄四日市駅周辺等整備事業の着手
- 投資効果を最大化するための、民間活力による再開発の誘導
- ☆賑わいを誘導するための、公園、道路等の公共空間の再整備
- ☆J R四日市駅周辺活性化と港と連携したまちづくりの推進

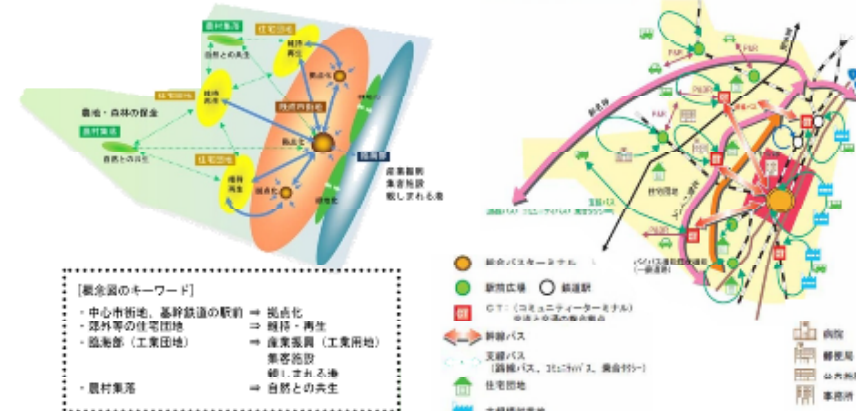
③既存住宅地の若返り施策の展開

- 良質な住宅ストックや宅地を活用した、住み替えや多世代居住促進策の検討
- 公営住宅の再編による余剰地の有効活用
- ☆団地ごとの特色を活かした、新たな居住者を呼び込むための魅力づくり
- ☆既存住宅団地と中心市街地を結ぶ持続可能な公共交通の検討

④広域道路整備のストック効果最大化

- 既存内陸部産業団地における生産機能の拡充への対応
- 北勢バイパスと臨海部空間を繋ぐ道路の整備
- ☆広域道路の特性を踏まえた、新たな産業用地や交流施設の適地検討

（1）現総合計画の土地利用概念図と都市総合交通戦略における将来交通体系イメージ



基本目標 1 都市と環境が調和するまち

政策分野（土地利用・環境）

基本的政策2 農地・森林の保全

現総合計画における主な実績・成果

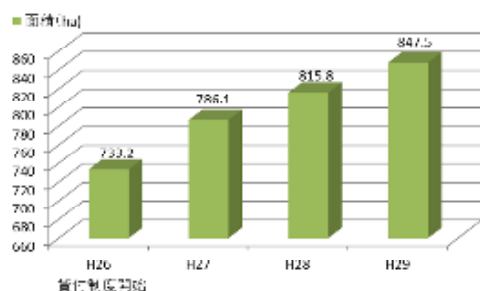
農地や森林は、生産の場としてだけではなく、環境保全や水源の涵養、自然災害を防止する機能を有するとともに、癒しの空間の醸成や生物多様性の維持など、多くの重要な役割を有しています。

優良農地の保全・集約化を重点施策に位置付け、「人・農地プラン」を通じた地域の担い手の確保や新たな農業の担い手の就農支援を行うとともに、「儲かる農業」を目指し農業のビジネス化を促進するため、6次産業化やGAP取得に向けた支援を行いました。

また、市民緑地制度やみえ森と緑の県民税を活用しながら竹林整備を行う地域活動団体などと協働し、森林と里山の保全に努めました。

南部丘陵公園や垂坂公園・羽津山緑地など大規模な公園・緑地については、できる限り元の自然を生かした形で整備を推進するとともに、地域のボランティア団体などによる樹林地維持活動を支援しました。

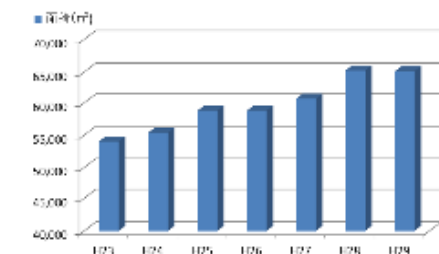
(1) 認定農業者への利用権設定面積



四日市市内の農地



(2) 市民緑地総面積



(3) 南部丘陵公園



次期総合計画策定に向けた主な検討課題

① 農地規模拡大や集約化による生産の効率化

- 農業従事者の高齢化と後継者不足による農家の減少に対応する農村集落の維持
- 農業用施設の老朽化対策と集落ぐるみでの維持管理体制の整備
- 認定農業者への利用権設定促進事業による農地の集積・集約化
- 農地中間管理機構への集積・集約化と「人・農地プラン」の見直し
- ☆ 認定農業者や集落営農組織の更なる育成支援

② 農業の6次産業化やブランドカアップへの取り組み

- 「儲かる農業」 へ向けた商品化や販売面への支援
- 国内取引および海外輸出の拡大のため、G A P 認証の取得支援
- 国・県を巻き込んだ農産物販売ルートの開拓

③先進技術の導入による効果的な営農の実現

- 先進技術を活用したモデル事業の検討
- ☆ 農作業全般のAI活用による省力化

④防災や水源涵養など多面的な役割を担う森林の積極的な保全

- 森林の荒廃の抑止
- 生物多様性の維持と獣害防止の両立
- ☆ 森林面積減少に伴う治水力低下への対策

(1) 国の農業分野におけるAI活用イメージ



基本目標 1 都市と環境が調和するまち

政策分野（土地利用・環境）

基本的政策 3 多様な主体の連携による環境都市への展開

現総合計画における主な実績・成果

世界的な課題である温室効果ガスの削減に向け、家庭やオフィス等が導入する太陽光発電等の新エネルギー設備の導入が図られるよう支援策拡充に取り組むとともに、公共施設についても省エネルギー及び新エネルギー設備の導入を進めました。

また、限りある資源を次世代に残せる循環型社会の実現に向け、ごみの適正な処理・処分に努めるとともに、3R（排出抑制（リデュース）、再使用（リユース）、再生利用（リサイクル））の取り組みを推進しました。

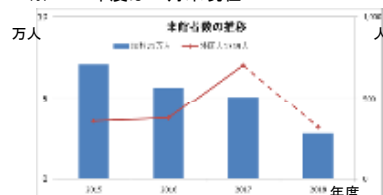
また、自然と人と産業が共生できる社会を目指し、市民や企業とともに緑化を進め、心に安らぎと潤いを与える緑あふれるまちづくりを行いました。

そして、「四日市公害と環境未来館」を整備し、四日市公害の経験とその後の環境改善の歩み、さらに現在の本市の環境への取り組みを広く国内外へ発信するとともに、同館を拠点に市民や事業者と協働し、環境教育の推進を図りました。

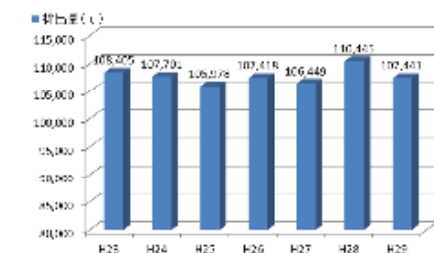
（1）四日市公害と環境未来館写真（H27.3.21開館）



四日市公害の歴史と教訓を後世に伝えるとともに環境先進都市を目指す本市の取り組みを発信する拠点として、市立博物館・プラネタリウムに併設する形で整備
※2018年度は9月末現在



（2）ごみ総排出量



←四日市市クリーンセンター（H28.4.1稼働）

（3）緑化基金（霞ヶ浦地区の企業からの負担金）を活用した花壇



次期総合計画策定に向けた主な検討課題

① 地球温暖化対策と四日市版スマートシティの形成

- 「創エネ」「省エネ」「蓄エネ」を核としたスマートシティの構築
- ☆ 中心市街地の活性化につながるエネルギーマネジメントシステムの検討
- ☆ 気候変動が引き起こす、暮らしへのさまざまな影響に対する適応の取り組み

② 安全で快適な生活環境の確保

- ごみ減量を中心とする3Rに向けた一層の取り組み
- 事業活動に起因する大気や水質等への環境負荷低減の取り組み
- 公共下水道や合併処理浄化槽等の生活排水処理施設整備の着実な推進

③ SDGsを見据えた環境先進都市への取り組みと情報発信の強化

- 市民・事業者との協働による環境学習及び環境保全活動の推進
- ☆ 豊かな自然環境を活かしたシティプロモーション強化
- ☆ 国際的な環境課題への取り組み

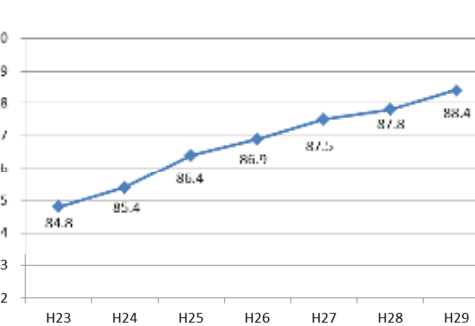
（1）温室効果ガスの推移と削減目標



（2）国のスマートシティ推進イメージ



（3）下水道や合併処理浄化槽等による汚水衛生処理率



基本目標2 いきいきと働ける集いと交流のあるまち

政策分野（産業・市民活動）

基本的政策1 臨海部コンビナート地区の持続的活用と産業の振興

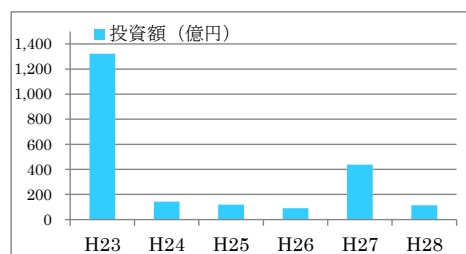
現総合計画における主な実績・成果

本市は、古くは市場や宿場の町として栄え、高度成長期以降は、全国有数の工業都市として、また名古屋大都市圏の中核をなす都市として発展してきました。

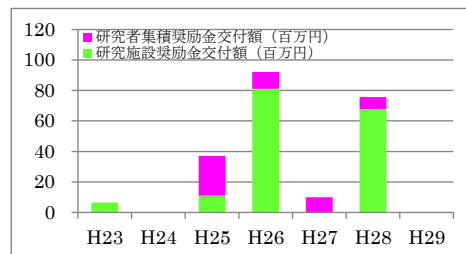
臨海部コンビナート地区では、企業ニーズに合った操業環境整備による再生、さらなる高付加価値型への構造転換や、研究開発機能の集積により、工業系用途での土地の有効活用を図りました。

その他中心市街地や内陸部における工業用地に隣接する区域等でも都市型産業、次世代産業の導入により地域産業が活性化することで、将来に向けた持続可能な産業都市として発展するとともに、安定的に就労の場が維持されるまちづくりを促進しました。

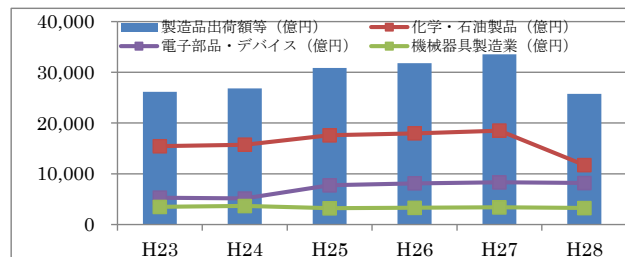
(1) 補助金を活用した設備投資額の推移



(2) 補助金の活用による研究開発機能の集積



(3) 製造品出荷額等の推移



四日市市の製造品出荷額等
2兆5735億円
(平成28年実績工業統計調査)

全国の都市の中で第13位
日本を代表する都市の一つ
になっている

次期総合計画策定に向けた主な検討課題

① グローバル競争を勝ち抜く！産業の機能強化と人材育成

- 事業所再編や海外競争などに打ち勝つ研究機能集積、事業展開及び人材育成への支援
- ☆産学官連携を活用した最先端技術に精通する高度人材及び海外人材の育成・確保
- ☆AIやIoTなどを活用した中小企業の人材不足の解決や競争力強化に向けた施策の検討

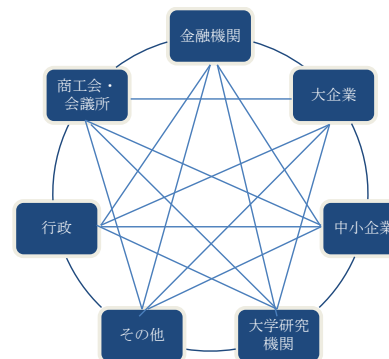
② 臨海部コンビナートの持続的な活用と機能強化

- 設備投資を促すため工場立地法による緑地確保の新たな手法の継続的な検討
- 国内事業所や海外競争に打ち勝つための企業と行政によるプラットフォームでの検討
- ☆コンビナート区域内の遊休地の活用方法の検討

③ 市民の暮らしを豊かにする事業所誘致の推進

- 重点分野を設定した企業立地奨励金の継続的な実施
- ☆企業のニーズを的確かつ素早く察知するとともに市の産業への姿勢を示す組織の検討
- ☆産学官金が連携し、産業振興を進めるにあたってシームレスな体制作りの検討
- ☆産学官を連携させたAIやIoTなどの最先端技術を活用した実証実験の支援
- ☆市民の日常生活を豊かにする企業の最先端技術を活用した取り組みへの支援

(1) 産学官金連携イメージ



(2) 日常生活に関連する最先端技術

【例】キャッシュレス決済による
生活サービスの向上



基本目標2 いきいきと働ける集いと交流のあるまち

政策分野（産業・市民活動）

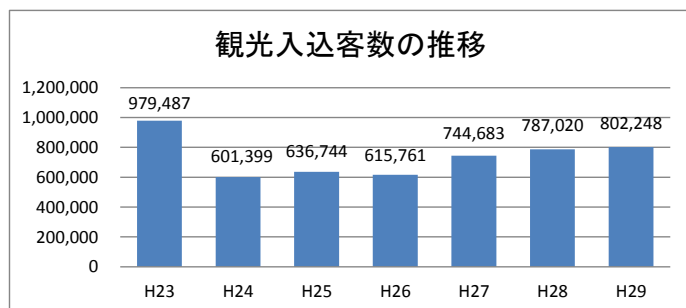
基本的政策2 四日市の魅力の再発見と滞在・体験型観光

現総合計画における主な実績・成果

地域資源を生かした物産開発や観光産業の振興により、四日市の魅力を市内外に情報発信することで、多くの人が四日市を訪れました。

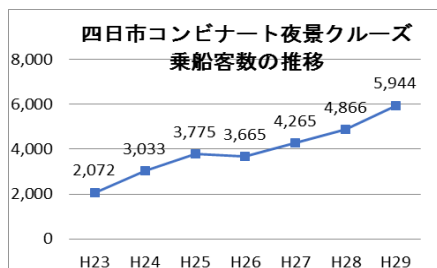
また、市民一人ひとりが地域の魅力を誇りに感じ、おもてなし意識が醸成された集客と交流のあるまちづくりに努めました。

（1）観光入込客数の推移



※平成24年度より、大四日市まつり、四日市花火大会におけるカウント方法を変更したため、全体数が減少している。

（2）四日市コンビナート夜景クルーズ乗船客数の推移



（3）フィルムコミッションによる情報発信

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
映画	2件	0件	3件	3件	2件
ドラマ	0件	1件	0件	1件	1件
テレビ番組	-	-	-	17件	25件
アニメ	-	-	-	1件	0件
CM	-	-	-	1件	1件

【誘致した映画における四日市市での撮影風景】



次期総合計画策定に向けた主な検討課題

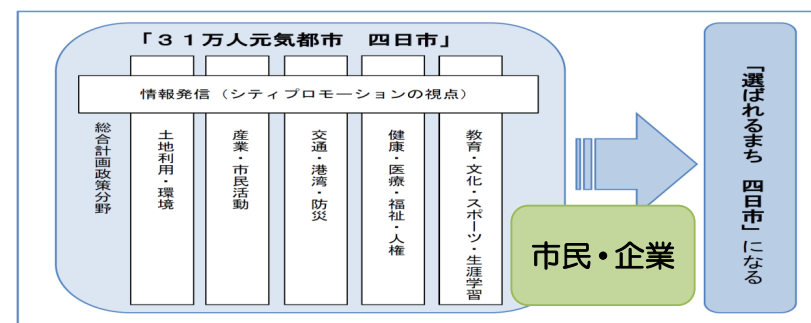
① 時代の潮流に対応した市内外への効果的なシティプロモーション

- 市民が本市の魅力を誇り、自発的な魅力の情報発信に結びつけるしくみづくり
- 幼少期から小・中学までにおける本市の様々な特産品や伝統産業の体験型教育
- ターゲットを設定した都市イメージや魅力の伝達に資する効果的な情報発信
- ☆行政、市民、企業が一体となった「選ばれるまち」となるためのシティプロモーション意識の醸成
- ☆新たな媒体や手法を活用したインパクトのあるプロモーションの検討

② 四日市に交流を創出する観光施策の推進

- コンビナート夜景クルーズをはじめとした、地場産業や観光事業者と連携した本市ならではの観光施策の継続的な推進
- やきもの産地、工場夜景、外国クルーズ客船の寄港などの観光資源を活用した、北勢エリアにおける広域的なネットワーク化及び連携の推進
- ☆最先端技術の活用や成長産業の誘致と連動したMICEの推進

（1）各政策分野の共通項目としてのシティプロモーション



（2）MICEの推進



基本目標2 いきいきと働ける集いと交流のあるまち

政策分野（産業・市民活動）

基本的政策3 自律的な暮らしを支える買い物拠点の再生と地産地消

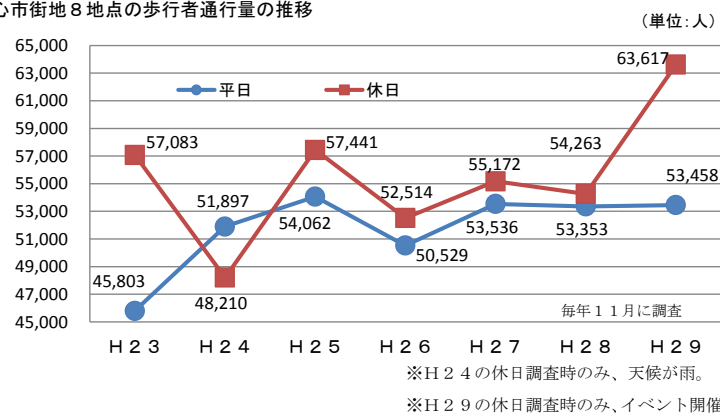
現総合計画における主な実績・成果

中心市街地では、高齢者をはじめ誰もが安心して訪れることができるよう、商業・文化・福祉・医療施設などの充実に努めました。

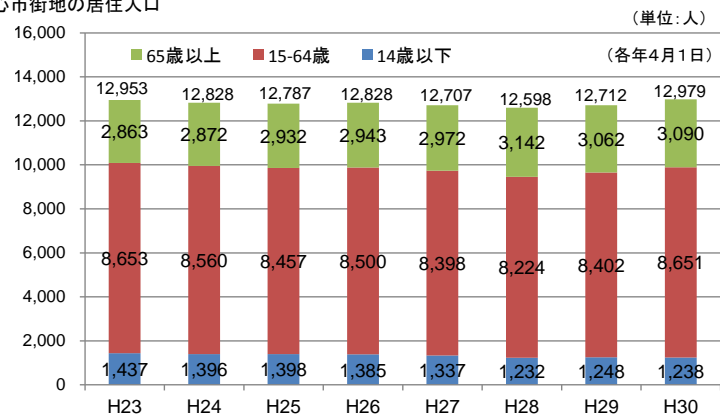
また、市内各地の定期市を若者にも支持されるよう再生するとともに、地域の生活拠点としての郊外大型ショッピングセンターも含め、それぞれが共存共栄する買い物拠点づくりを進めました。

さらに、外出困難な高齢者や障害者が買い物しやすい宅配等の担い手が育ってきた中、誰もが生活しやすい買い物環境が築かれた、あんしんと活気のあるまちづくりに取り組みました。

（1）中心市街地8地点の歩行者通行量の推移



（2）中心市街地の居住人口



次期総合計画策定に向けた主な検討課題

① 四日市の顔として、幅広い年代が集い、交流できる中心市街地づくり

○都市型産業の誘致に対する支援要件の検討

○市民や商業者、行政も含めた一体的な中心市街地活性化へのビジョンの共有・検討

☆現代版宿場町として中心市街地の魅力的な景観・空間づくりを検討する体制づくり

☆中心市街地への魅力的な拠点施設の整備及び誘致

② 市民の誰もが日常的な買い物を不便なくできる環境の整備

○宅配、インターネット通販等への対応、またそれらに特化した創業への支援

○公共交通機関の充実による商業施設へのアクセスの検討

☆地区市民センター等の公共施設を活用した購入品の受け取りサービスの検討

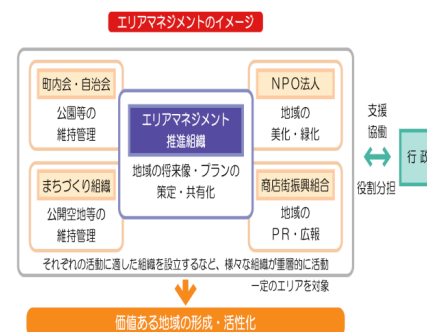
☆キャッシュレス決済を活用した交通機関と商業施設の連携サービス導入の検討

③ 地域が支える商業の構築

☆市の名の由来でもある「定期市」を維持・存続させる積極的な支援や体制づくりの検討

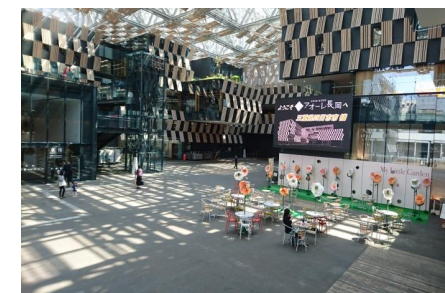
☆各地域の既存商店街や商店等を地域が支えられる仕組みづくりの検討

（1）景観・空間づくりの例



（2）中心市街地の拠点施設（例）

【アオーレ長岡（新潟県長岡市）】



基本目標2 いきいきと働ける集いと交流のあるまち

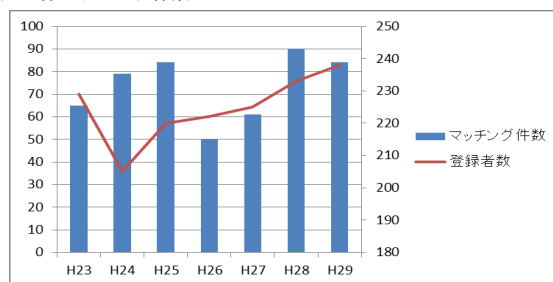
政策分野（産業・市民活動）

基本的政策4 生涯を通じた社会参加が可能な環境整備

現総合計画における主な実績・成果

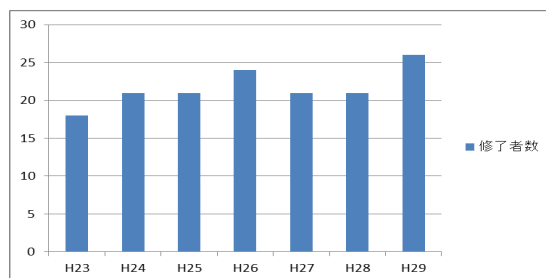
高度化・多様化する市民ニーズや、さまざまな地域課題に対応するため、市民意識の向上を図りながら、行政と市民・市民活動団体、企業の適正な役割分担に基づく参加と協働によるまちづくりを進め、すべての市民が生涯を通じて社会参加することができるまちづくりに努めました。

（1）人材マッチング件数



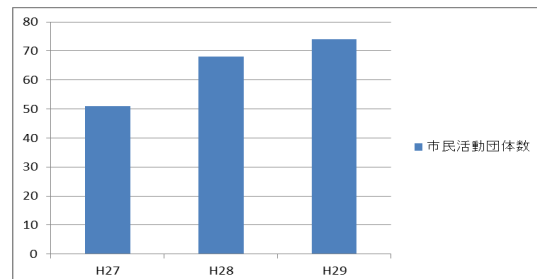
地域の中の多様な経験や技能を持つ人材を発掘・育成し、まちづくりに活かすことができるよう、それらの人材と地域ニーズとのマッチングを行った。

（2）地域づくりマイスター養成講座修了者数



地域におけるまちづくりリーダーとなる人材を養成するため、リーダーとして必要な知識や技術を習得するための講座を開講し、人材の育成に取り組んだ。

（3）市民協働促進条例に基づく届出のあった市民活動団体数（累計）



市民活動センターでの相談業務等を通して、公共の利益を目的として自主的に活動を行う市民活動団体の育成に取り組んだ。

次期総合計画策定に向けた主な検討課題

① 住民満足度を高める多様な活動団体の立ち上げ

○活動団体の立ち上げや持続可能な運営を推進するため、ソフト面から効果的に支援・育成できる市民活動センターの機能強化
☆本市の各地区での市民活動の活発化に向けた環境づくり

② 地域課題の解決に向けたアイデアや行動力を持つ人材育成

○地域づくりの担い手に多様な年齢層が参画するための効果的な周知啓発と参加促進に向けた施策の検討
☆市民活動が暮らしやすさや住民満足度につながることにかかる小中での教育など新たな切り口からの周知啓発

③ さまざまな団体や人が連携する新たな市民協働のプラットフォームづくり

○市民協働による委託など、従来とは異なる行政課題の解決に向けた手法に対する、全庁的な情報共有とノウハウの蓄積
○地域課題を解決するコミュニティビジネスの創出に向けた周知啓発とプラットフォームづくりの更なる推進
☆産業都市としての特性を生かした、企業やその人材による社会貢献活動と地域課題をマッチングさせるプロボノ活動を活発化させる施策の推進

（1）コミュニティビジネス創造塾



（2）プロボノ活動



基本目標3 誰もが自由に移動しやすい安全に暮らせるまち

政策分野（交通・港湾・防災）

基本的政策1 市民の暮らしを支える公共交通機関の利用促進

現総合計画における主な実績・成果

本市では、個人の生活様式の多様化により市民の生活圏が広がり、産業の発展に伴い物流が活発化する中で、慢性的な交通渋滞が発生するとともに、過度な車依存などから公共交通機関の利用者が年々減少してきました。

このような中、通勤・通学など日常生活に不可欠な鉄道支線の維持を図るため、内部・八王子線を公有民営方式に移行し、四日市あすなろ鉄道として存続させました。

また、高齢者や障害者も利用しやすいよう鉄道事業者が実施する駅のバリアフリー化への支援や駐輪場の整備により、利用促進を図りました。

(1) 公有民営方式に移行した四日市あすなろ鉄道



四日市あすなろ鉄道オープニングセレモニー
(平成27年4月)



地域ボランティアによる駅舎塗装（日永駅）
(平成27年10月)

(2) 鉄道駅の利用環境改善



鉄道駅のバリアフリー化（JR四日市駅）
(平成27年3月)



駅前広場整備における駐輪場（西日野駅）
(平成30年9月)

次期総合計画策定に向けた主な検討課題

① スーパー・メガリージョンに対応した都市の競争力を支える交通政策

○公共交通を優先し、歩行者にやさしいまちなか環境づくりの推進

○まち中への広域的機能の積極的な誘導とモビリティ・マネジメントの推進

☆リニア時代に対応した、人が集い行き交う拠点としての近鉄四日市駅等の周辺整備

② 持続可能な集約型まちづくりに向けた交通網の整備 ～攻めのコンパクト化～

○立地適正化計画により、緩やかな居住誘導と連携した公共交通ネットワークの検討

☆ショッピングセンターや整備が期待される道の駅を活用した公共交通ローカルハブ拠点（コミュニティターミナル）の整備

③ 地域公共交通の維持と利用しなくなる環境づくり

(鉄道)

○近鉄四日市駅周辺をはじめとする駅前広場や鉄道駅に至る歩行者動線の整備の推進

○あすなろ鉄道の計画的な施設更新・修繕及び鉄道維持のための地方鉄道への支援

(バス等)

○コミュニティターミナルを拠点とした地域公共交通網の再編

○高齢者をはじめとする交通弱者や公共交通不便地域の移動手段を確保するため、福祉と連携したデマンド交通の導入検討

☆乗客の安全安心につながる街灯・屋根付きバス停シェルターの整備

☆定時性を守り利便性を高めるための、公共交通優先システムや待ち時間表示の整備

④ 自動運転・AIを活用した、安心して快適な暮らしを支える交通基盤の実現

☆自動運転バス車両等の本格導入を視野に入れたロードマップの検討

☆人口減少と自動運転時代を見据えた端末交通のあり方と利用者負担の検討

(1) リニア開通による交通網の進展



(2) 自動運転車両の例



基本目標3 誰もが自由に移動しやすい安全に暮らせるまち

政策分野（交通・港湾・防災）

基本的政策2 地域を支える道路空間づくり

現総合計画における主な実績・成果

交差点や渋滞ネック箇所の整備を進め、南北方向の慢性的渋滞や朝夕を中心とした東西方向の渋滞解消を図るとともに、高齢者や障害者を含めた歩行者や自転車にとっても安全安心な市民生活や産業活動を支える道路空間づくりに取り組みました。

（1）市民生活や産業活動を支える道路整備



北勢バイパス
平成27年3月供用開始
垂坂町～山之色町
延長1.4km

（2）自転車レーンの整備



自転車レーンの整備（堀木日永線）
（平成30年3月：継続中）

（3）リフレッシュ事業



再舗装工事（桜台1号線）
（平成29年10月）

次期総合計画策定に向けた主な検討課題

- ① 都市の持続可能な発展を支える広域幹線道路の整備
 - 北勢バイパス事業中区間の早期整備と事業促進区間の早期事業化
 - 東海環状自動車道（西回り）区間の早期整備
- ② 広域道路ネットワークと連携した都市内幹線道路の整備
 - 広域ネットワークの整備状況や都市産業活動を踏まえた次期整備路線の検討
 - 幹線道路の再舗装
- ③ 交通渋滞の大幅解消に向けた道路整備と交通システムの構築
 - 渋滞の解消、通過交通の都市内流入の抑制を目的とした幹線道路整備
 - ☆地域ごとの交通特性を踏まえた、交通需要ピークの分散手法の検討
- ④ 地域の暮らしを支える生活道路の整備
 - 生活に身近な道路整備方針の検討及び事業の重点化と集中的な整備
 - ☆駅やバス停につながる自転車歩行者道、自転車レーンのさらなる整備
 - ☆地元要望における地域の選択肢に身近な道路整備事業だけでなく、公共交通事業を付加する考え方の検討
- ⑤ 自動運転時代を見据えた道路インフラの整備
 - ☆自動運転を支えるための区画線などの道路整備や情報提供の仕組みづくり

（1）早期整備が望まれる北勢バイパス



基本目標3 誰もが自由に移動しやすい安全に暮らせるまち

政策分野（交通・港湾・防災）

基本的政策3 産業と市民生活を支える港づくり

現総合計画における主な実績・成果

産業のグローバル化に伴い国際物流が効率化される中で、アジアの諸港湾と比べて日本の港湾の競争力の低下が懸念されていた状況の中、伊勢湾全体の視点で、大型化する船舶への対応や港湾コストの低減などに取り組み、四日市港が背後地産業の物流コスト削減を通じて企業活動を支える、活気あふれるみなとまちを目指して、霞4号幹線の整備など港湾機能の強化を図るとともに利用促進に努めました。

あわせて臨港地区内の土地の有効活用を図るとともに、点在する緑地や港の夜景、さらには重要文化財及び近代化産業遺産に指定されている末広橋梁などの港湾景観を生かして、市民に親しまれるまちづくりと一体となった港づくりに努めました。

（1）霞4号幹線【四日市・いなばポートライン】（H30.4.1 開通）

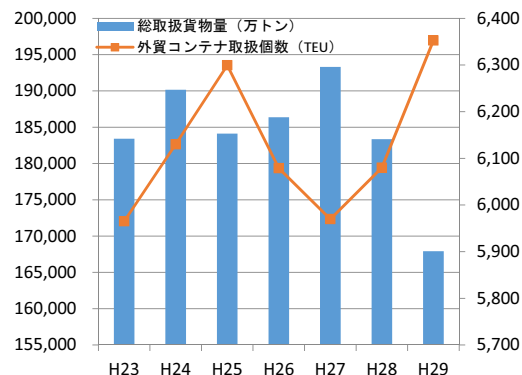


四日市港霞ヶ浦地区から伊勢湾岸自動車道みえ川越IC付近までを結ぶ、延長約4.1kmの臨港道路

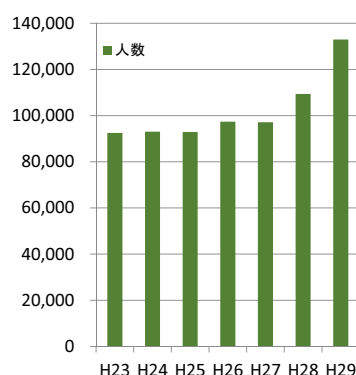
～整備効果～

- ①物流機能の効率化
- ②国道23号等周辺道路への荷軽減
- ③リダンダンシー（代替機能）の確保

（2）四日市港の総取扱貨物量・外貿コンテナ貨物取扱量



（3）四日市港への来港者数



次期総合計画策定に向けた主な検討課題

① 経済のグローバル化に対応する、多様なものづくり産業への物流面からの支援強化

- コンテナ貨物、自動車やエネルギー原料となるバルク貨物の取扱需要の増加に対応するため、ポスト霞4号幹線事業となる政策的投資事業の財政負担を含めた検討
- 伊勢湾岸自動車道に直結する霞4号幹線の開通、今後の新名神高速道路・東海環状自動車道の延伸による、四日市港に対する利用優位圏の拡大への対応
- ☆背後圏の産業を支える総合港湾として、荷主企業や船会社から選ばれるために、交通と港湾をリンクしたサービス向上のための施策検討

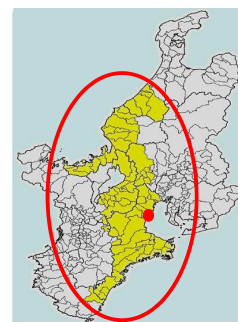
② 港町としての魅力的な都市空間の創造 ～旧四日市港のリニューアルを主として～

- 霞ヶ浦地区 近年の工場夜景人気の高まりやクルーズ船の寄港により、大勢の観光客や見学者が訪れ活気に溢れていることを踏まえた更なる来港者数の増加に向けた検討
- 四日市地区 かつての活況はなく将来に向けた展望が見えにくいいため、まちづくりと一体となった魅力的な都市空間づくりを検討
- ☆民間商業施設の立地、旅客船バースやターミナルの整備
- ☆市民が港に親しむためのランニング・散歩コースの整備
- ☆クルーズ観光客や市民のための休憩施設・トイレの整備
- ☆にぎわいづくりと災害時の防災拠点を兼ね備えた海の駅の整備
- ☆施設を大々的につくるといった発想ではなく、大きな労力を必要としない簡単・穴場的なことから人が来る仕掛けを考え、評判が出てくればそれを増強する方向での検討

③ 南海トラフ地震等の国難規模の災害への備えと港湾機能の活用

- 臨海部の地域住民や企業の生命・財産を守るための事前対策の充実・強化について、ソフト・ハードの両面から検討
- ☆被災後の緊急物資の受入れ、早期復旧・復興をどのように図るべきかの検討
- ☆臨海部の防災対策への先進技術等の導入・活用

（1）四日市港の利用優位圏の拡大



（2）大型外国客船の来港



基本目標3 誰もが自由に移動しやすい安全に暮らせるまち

政策分野（交通・港湾・防災）

基本的政策4 市民と行政とで築く安全なまちづくり

現総合計画における主な実績・成果

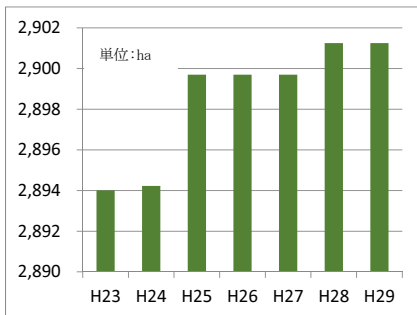
近い将来に発生が予測される南海トラフ巨大地震、集中豪雨や台風に対して、計画的な耐震対策や総合的な治水対策に加え、市民・市民活動団体、企業と行政が一体となって地域防災力の強化に取り組みを進めるとともに、公共施設の有効活用、消防力の強化や消防救急体制の充実など、災害に備えができた安全に暮らせるまちづくりの推進に努めました。

(1) 一般住宅耐震化率の推移

年度	23	24	25	26	27	28	29
耐震化率	83.4%	85.8%	83.9%	84.5%	85.1%	87.1%	89.0%

※平成25年度に実施された住宅・土地統計調査（総務省）により率修正。平成26年度以降は推計値

(2) 市街化区域内の雨水排水整備済面積



※南五味塚ポンプ場（H30.12完成）



(3) 消防署所の適正配置

消防車両等の現場到着時間の短縮を図るため、市内南部及び北部地域に消防分署を整備



○南部分署【平成29年4月開署】
・出勤区域（四郷・日永・内部）における
救急車現場到着平均時間
〔H28年度〕8分7秒 ⇒ 〔H29年度〕5分43秒



○北部分署【平成30年4月開署】
・出勤区域（八郷・下野・羽津・大矢知・三重・県）における
救急車現場到着平均時間
〔H29年度〕9分8秒 ⇒ 〔H30年度〕6分57秒
（※4月～11月までの8カ月間の比較）

次期総合計画策定に向けた主な検討課題

- ① 「想定外」をつくらない、地震や集中豪雨等の災害に備えた事前対策の強化
○木造住宅の耐震化に加え、沿道建築物の耐震化のスピードアップ
○多発している集中豪雨や土地利用の変化等に対応するための計画的な雨水排水対策
☆災害時における企業の役割の検討や企業との連携の推進
☆大規模災害時に市民と行政とをつなげるためのツイッターやSNSの有効活用、市民から写真や映像で情報提供してもらい、みんなが情報共有できるシステムの構築
- ② 最優先で命を守り、被害を限りなく最小化（減災）するための“防災人づくり”
○会議や研修による情報共有実施、講座受講による地域防災力の向上
○若い世代の防災活動への参加促進、要配慮者対策、地域を超えた災害対応力の向上
☆市民参画による防災マップの改訂や地区防災計画づくりを通じた人材育成や防災意識の向上
☆バーチャル技術を使った防災疑似体験の機会創出
☆普段は交流や防災学習の場に活用し、災害時には防災拠点となる場の整備
- ③ 更なる消防力の強化・消防救急体制の充実に向けた施策の推進
○消防署所の機能強化による消防力の強化充実
○救急業務の高度化と医療機関との連携強化による救命率の向上
☆消防団活動の強化充実による地域防災力の向上

(1) 市民参加による想定外を想定するためのツール作成



(2) 避難所運営訓練の様子



(3) 国が研究を進める消防ロボット



基本目標4 市民が支えあい健康で自分らしく暮らせるまち

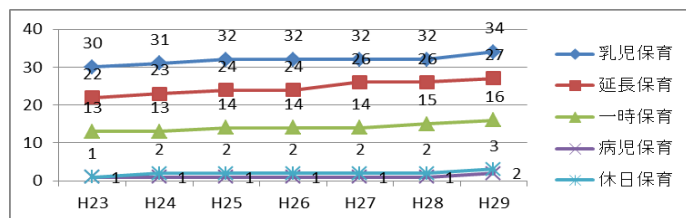
政策分野（健康・医療・福祉・人権）

基本的政策1 安心して子どもを産み、育てられる社会の実現

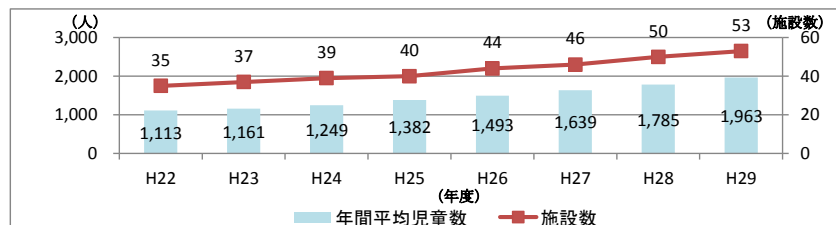
現総合計画における主な実績・成果

本市では、人口減少時代への突入や超高齢社会の到来に伴い、福祉や医療に対する市民ニーズがますます多様化し、より一層地域でお互いを支えあうことが必要となる中で、安心して子どもを産み育てることができ、また子ども自身ものびのびと育つことのできるまちを目指し、延長保育や休日保育、病児保育などの多様な保育サービスや学童保育を充実するとともに、保護者の子育てへの不安や悩みをワンストップで相談できる体制を整えました。

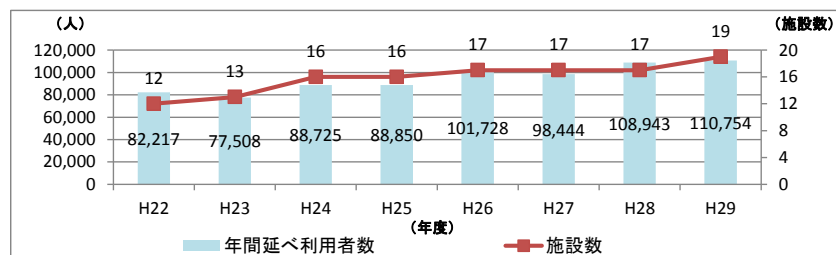
(1) 特別保育実施箇所数



(2) 学童保育所数（利用者数・施設数）

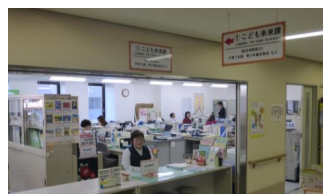


(3) 子育て支援センター（利用者数・施設数）



(4) 子育てコンシェルジュの配置

平成27年度 総合案内窓口（こども未来課）
 平成29年度 単独型子育て支援センター（橋北及び塩浜）
 平成30年度 こども子育て交流プラザ



次期総合計画策定に向けた主な検討課題

①高齢化・人口減少社会での「多様な働き方」に対応した保育サービスの提供

- 「幼児教育無償化」の動きを踏まえた利用者のニーズの把握と保育提供枠の供給再考
- 次期公立幼稚園適正化計画に基づく認定こども園の整備検討

②「小1の壁」打破に向けた放課後児童の居場所づくり

- 需要が増大する学童保育所への支援のあり方の検討
- 学童保育所の設置を前提とした学校改修計画など待機児童解消のための施設確保
- ☆学童保育所指導員の育成機能を有した拠点型施設の設置
- ☆小学校内の学童保育所の設置推進と地域住民や企業などの多様な主体による体験・交流機会の提供
- ☆民間企業参入促進などによる多様な主体の学童保育所の運営

③男女がともに輝き、子育てが尊重される職場づくりの推進

- ☆出産・育児を理由に退職を求めない、男性の育児休暇取得向上、業務効率化による定時退社等、ワーク・ライフ・バランスの推進と一体で子育て尊重の職場づくりを進める企業へのインセンティブ（補助金・表彰）

④妊娠・出産・子育ての不安を解消する「人」や「情報」へのつながり支援

- 相談支援専門員の専任化など、発達相談件数増加への対策検討
- ☆個々が求める子育て情報へのつながり支援、育児不安を抱える家庭への早期働きかけにより虐待の未然防止につなげるため、子どもカルテ作成により訪問の必要な家庭をAI抽出し、個別訪問を実施
- ☆小児在宅医が不足していることへの対応等、こどもの在宅医療への支援検討

⑤地域の子育てを応援する仕組みづくり

- ☆専業主婦、中高生などの多様な主体による子育てコミュニティづくりと安心面における行政のサポート

⑥「子育てするなら四日市」～子育て世代に選ばれるまちになるために～

- ☆居住地の選択に強い決定権を持つ母親の心を掴む施策の部局横断的な検討

(1) 個別訪問（こんにちは赤ちゃん訪問）



(2) 学童保育所の様子



基本目標4 市民が支えあい健康で自分らしく暮らせるまち

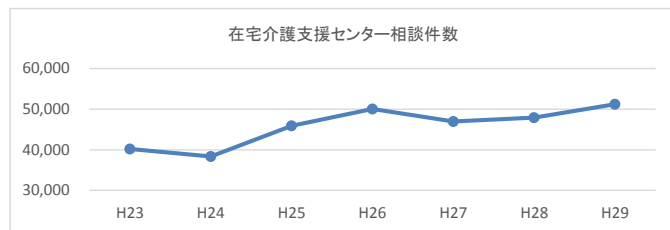
分野（健康・医療・福祉・人権）

基本的政策2 地域で安心して生活できる環境づくり

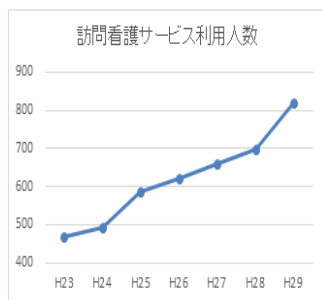
現総合計画における主な実績・成果

在宅福祉・在宅医療分野において、地域包括支援センターをはじめとした福祉の拠点における医療との連携や病診連携、訪問医療・看護の体制など、在宅での療養をサポートするシステムを整え、安心できる福祉・医療環境を目指すとともに、市立四日市病院の整備充実や他の2つの基幹病院との病病連携などにより、質の高い医療を提供できるよう努めました。

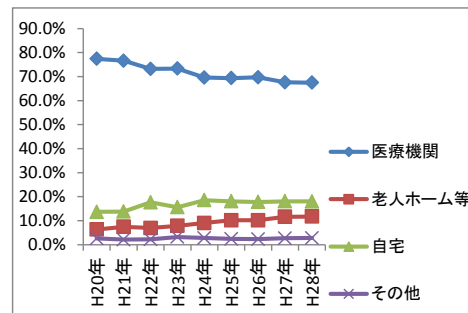
(1) 在宅介護支援センター相談件数



(2) 訪問看護サービス利用人数



(3) 最期を迎えた場所の割合推移



(4) 医療環境整備と高度医療サービスの提供（市立四日市病院）

①増築棟（H24.5使用開始）

手術室や新生児集中治療室（NICU）等を整備



②高精度で汎用性の高い放射線治療装置導入（H29.4）



次期総合計画策定に向けた主な検討課題

① 2025年問題とその先を見据えた医療・介護・福祉

(1) 持続可能で安心な医療体制の確保

- ☆急性期医療を担う基幹病院と診療所の役割分担推進、市民への正しい受診知識の普及啓発、医療の選択肢としての在宅医療周知などによる医療現場の効率化
- 高度急性期病院の役割を担う市立四日市病院の高度医療・救急医療の機能強化
- 認知症の早期診断・対応体制の充実（初期集中支援チーム・医療と介護の連携強化）
- ☆必要な医療を受けるための高齢者の移動手段の確保

(2) 本人の希望と家族のライフスタイルに合った介護スタイルの支援

- 介護保険事業計画に基づく入所施設・サービス事業の整備
- 総合相談窓口としての役割を担う在宅介護支援センターの機能充実
- 認知症予防施策の推進、本人・家族の支援充実（理解促進、地域の支援者育成）
- ☆人材不足を補う介護ロボット（四日市モデル）の介護現場・大学・企業との共同研究

(3) 複雑多様化する相談内容に対応できる地域福祉の体制強化

- 成年後見サポートセンター事業・市社協日常生活自立支援事業での幅広い関係機関・職種との連携強化

②在宅医療の希望がかなう体制づくり ～自宅で最期を迎えたい～

- 在宅医療に携わる人々の負担を軽減し、担い手を増やす支援（訪問看護師・ケアマネジャー等多職種との円滑な連携体制づくり等）
- ☆医師の地域的偏在を解消するための支援策の検討
- ☆家族の心理的・肉体的な負担を減らし、在宅医療のハードルを下げる取組
- ☆ポジティブなイメージの周知（在宅医療先進都市、「老衰で亡くなる割合日本一」）

③ 住民主体で地域福祉を担うための意識づくりと活動支援

- 地域福祉の発展と介護予防の推進を図るため、住民主体の取組に対する生活支援コーディネーター等からの支援
- 市社協ボランティアセンター事業を通じて、ボランティア活動を支援

(1) 住民主体サービス（ゴミ出し）



(2) ヘルスリーダーの活動（介護予防）



基本目標4 市民が支えあい健康で自分らしく暮らせるまち

政策分野（健康・医療・福祉・人権）

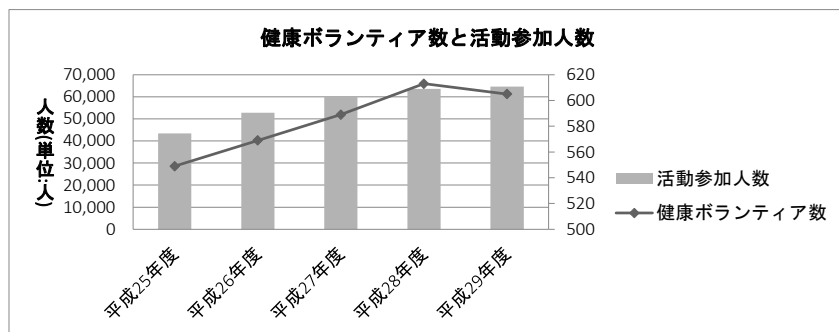
基本的政策3 子どもから高齢者まで元気で暮らせる健康づくり

現総合計画における主な実績・成果

福祉・医療にかかわるNPOやボランティア、地域における見守りネットワークなど、きめ細かいサービスの提供のための仕組みづくりにより、子どもや高齢者・障害者など誰もが地域で安心して生活することができるよう努めました。

また、生活習慣病や心の病が社会問題化する中で、一人ひとりが自らの食生活を含めた、身体と心の健康に高い意識を持つとともに、身近なところで生活習慣病予防ができる健康教室や食生活改善のための活動が展開されたり、いつでも気軽に心の不調を相談できる体制を整えることで、生涯を通じて心身ともに健康で暮らすことのできるよう努めました。

(1) 健康ボランティア数と活動参加人数



(2) ステキ健康サポーターの活動（健康づくり）



(3) こころの健康講座



次期総合計画策定に向けた主な検討課題

① 市をあげて取り組む健康寿命の延伸

(1) 医療・介護に頼らず人生100年時代を生きる体づくり

○小・中学校での給食を通じた食育の推進

☆朝食を食べる習慣づけに役立つ朝食レシピ紹介、健康食コンテストの開催

☆ふれあいいきいきサロンと連携した単身高齢者向け簡単料理サークル

○各種検診の受診率向上による病気の早期発見・早期対応

☆生活習慣病予防効果の高い40～50代男性が職場で強制的に取り組むため、企業・社員（家族）の健康ポイントを競う大会開催と企業の参加を促すインセンティブの検討

☆健康づくり意識の2極化を踏まえた無関心層を引き込む方策の検討

スマホアプリの活用、健康関連企業と提携したプログラム提供、3世代で参加できるまち歩きイベント（ゲーム性付加のためスポットに電子タグ設置）、禁煙支援など

(2) いきいきと暮らせるこころの健康づくり

○こころの健康・ストレスについて考える授業の実施、教員等を対象とした研修会・事例検討会の実施など校内の相談しやすい環境づくり

☆有給休暇取得向上、フレックスタイム導入、定時退社の推進など、ワーク・ライフ・バランスに取り組む企業へのインセンティブ検討

☆心が疲れたときの対処法、適切な医療の受診を指導する「市民よろず相談」の実施

☆正しい理解と適切な働きかけのため、企業を通じた社員への正しい知識の普及啓発

☆外出の楽しみとなるきっかけ作り等、引きこもりがちな退職後男性への働きかけ

☆高齢者が生きがいをもち続けるため、行きたい場所へ自由に行ける移動手段の確保

(3) 「住めば健康になるまちづくり」の推進

☆「歩く」「食べる」等をテーマに、個人・団体・世代を問わず楽しんで継続できる、多様な団体と連携した全市的な取組を部局横断的に検討

公共施設の表示、歩道・公園の標識、市民のモチベーションを上げるポイント制度とインセンティブ、商店街で健康メニュー提供、通勤駅に健康測定ブース設置など

☆健康ポイントから医療費抑制の成果をデータで「見える化」して市民に公表

(1) 冊子「ARUKU」の南部丘陵公園のマップ



(2) 楽しみながら歩く



基本目標4 市民が支えあい健康で自分らしく暮らせるまち

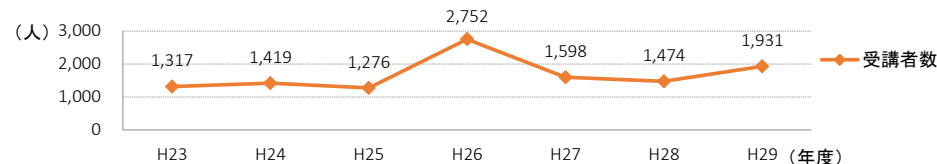
政策分野（健康・医療・福祉・人権）

基本的政策4 自分らしく暮らせるまちづくり

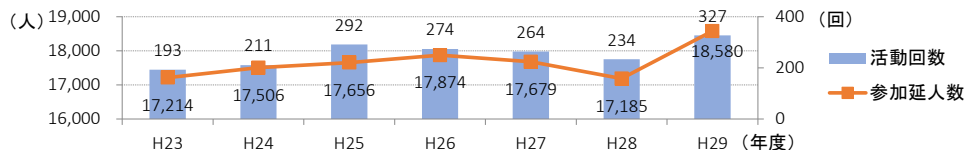
現総合計画における主な実績・成果

すべての人の人権が尊重され、地域で安心して生活できるよう、人権意識を高めるための活動への支援やバリアフリー化、児童や高齢者への虐待や、DVなどの防止に向けた体制の強化によって、それぞれの個性と能力を発揮しながら自分らしく生きることができるよう努めました。

(1) 人権リーダー養成講座受講者数



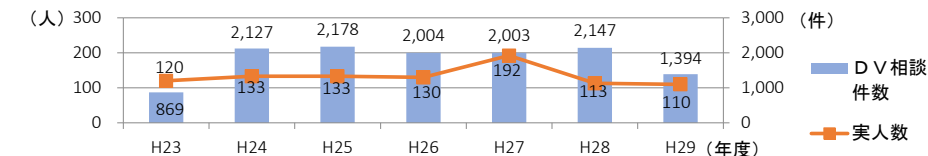
(2) 各地区人権・同和教育推進協議会等活動の実施状況



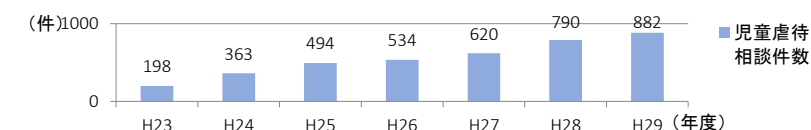
(3) バリアフリー化された施設（三浜文化会館）



(4) 男女共同参画センター女性相談 DV被害相談の実施状況



(5) 児童虐待相談受付件数



次期総合計画策定に向けた主な検討課題

① あらゆる人権課題に対する市民の人権意識の高揚

- 障害者差別解消法、ヘイトスピーチ解消推進法、部落差別解消推進法など差別解消に関する各法令等の実効性を高めるための周知と、人権に対する一層の市民理解推進のための、地域、企業、学校等における人権教育及び啓発の充実
- 国の新たな外国人材の受け入れ方針による、外国人市民数の増加と国籍の多様化を見据えた対応
- 性の多様性や、インターネット上の人権侵害など新しい人権課題への対応

② 増加する子ども、高齢者へのDVなど様々な精神的・身体的虐待や暴力の防止

- ☆情報一元化とAIを活用した訪問の必要な家庭の抽出による効率的な個別対応の強化
- 相談体制のさらなる充実、強化
- 関係機関との効果的な連携体制の構築、見守り体制の拡充による早期発見・早期対応体制の強化
- 生活実態の把握が困難な家庭の情報収集の方策
- 養育支援訪問事業の強化等による児童虐待の未然防止
- デートDV予防教育出前講座の全校実施等の若年層への啓発

③ すべての子どもが家庭環境に左右されることなく、明るい将来を見通せる環境づくり

- ☆子どもの自立性を伸ばし、生きていて楽しいと思える力を育む取組

④ ユニバーサルデザインによるハード・ソフト両面のまちづくり

- 障害者差別解消法に基づく合理的な配慮の提供を念頭とした環境の整備
- ユニバーサルデザインによる公共施設の更新及び民間施設の整備誘導
- ☆すべての市民の幸福につながる（ユニバーサルデザイン）視点をもった政策づくり

(1) 人権にかかる講習（人権大学ステップアップ講座）



(2) 児童虐待防止にかかる啓発



基本目標5 心豊かな“よっかいち人”を育むまち

政策分野（教育・文化・スポーツ・生涯学習）

基本的政策1 自ら学ぶ力と豊かな心を持ち、たくましく生きる子どもの育成

現総合計画における主な実績・成果

変化の激しいこれからの社会を生きる子どもたちのために、「問題解決能力」「豊かな人間性」「健康・体力」を身に付けるための取組みとして、本市独自の小中一年生における30人学級編制（下限なし）、幼保小中連携型一貫教育としての「学びの一体化」、四日市版コミュニティスクールの推進等の施策を着実に進めました。

また、特別な支援を必要とする子どもへの早期支援や、不登校、いじめ等の未然防止、早期解決のための体制作りを進めました。

さらに、学校の統廃合を含めた学校規模等の適正化に向けた取組みや施設の計画的な改築、修繕など適切な教育環境の確保・充実に努めました。

（1）小学校英語科の指導体制の確立



・英語を専門的に教える教員（英語専科教員）を全小学校に配置
（平成30年度～）

（2）四日市版コミュニティスクールの実践事例



・米作り体験学習

（3）計画的な校舎の改築・修繕事例



・富田中学校校舎改築（平成26年4月 竣工）

次期総合計画策定に向けた主な検討課題

① AIでは補えない人間力を育てる教育

○新学習指導要領に対応した教育の実践（英語教育、プログラミング教育等）と教職員のスキルアップ

☆A IやI o Tの進展による職業の変化への対応

☆生きる力、コミュニケーション力、自己肯定感の育成

☆スポーツ・芸術等さまざまなチャレンジができる機会の確保

☆地域の魅力・文化・歴史を語ることで郷土愛を持った子どもの育成

② 支援を必要とする子どもへの対応

○特別な支援を要する子どもや支援を希望する保護者（家庭）の増加への対応

○不登校、いじめ等、問題行動の未然防止、早期解決に向けた相談体制の充実

☆学校以外の居場所づくり（第3の場所）と多機関で連携したチームでの対応

③ 子育て支援と教育との新しい連携や仕組みづくり

☆就学前～中学校、高校にいたるまでの連続性を意識した子育て支援と教育の連携

☆子どもの貧困に対応する施策との連携

☆家庭環境に左右されず、子どもが自ら学習できる教育環境の確保

④ 子ども目線を重視した、学校へ行きたくなる教育環境の確保

○電子黒板を導入した学習支援の推進

○教職員の多忙化を解消し、子どもに向き合う時間を確保するための体制づくり

○教育施設の長寿命化に向けた計画的な改修

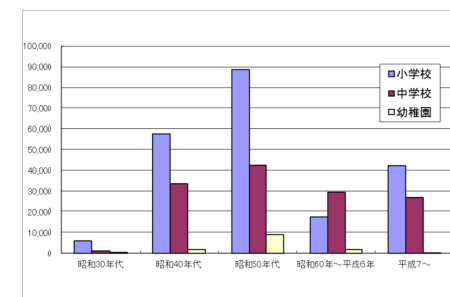
☆タブレット端末等を活用した学習の効率化及び通学時の安全確保

☆少子化等に伴う学校規模等の適正化

（1）タブレット端末を活用した学習支援



（2）幼稚園及び小・中学校校舎の建設年代と延床面積



基本目標5 心豊かな“よっかいち人”を育むまち

政策分野（教育・文化・スポーツ・生涯学習）

基本的政策2 四日市ならではの文化の情報発信と活動の場づくり

現総合計画における主な実績・成果

本市は、古くから宿場町や「市」のまちとして栄えてきており、大入道などに代表される郷土文化財も多いことから、国指定史跡久留倍官衙遺跡の整備や博物館に四日市公害と環境未来館を併設するなど、四日市ならではの文化の情報発信の戦略づくりを進めました。

また、美術や音楽、伝統芸能などさまざまな分野において、活発に文化活動が行われていることから、遊休化した公共施設の活用による三浜文化会館の整備など、新たな芸術・文化活動の場づくりを進めました。

（1）三浜文化会館（平成28年12月1日供用開始）



（2）全国ファミリー音楽コンクール in よっかいち （平成24年度からスタート）



（3）「鳥出神社の鯨船行事」

平成28年12月1日ユネスコ無形文化遺産登録



（4）博物館・プラネタリウムをリニューアル オープン（平成27年3月21日供用開始）



次期総合計画策定に向けた主な検討課題

① 若者から高齢者まで、多世代の担い手による伝統文化の保存・継承

- 伝統文化の各保存継承団体が必要とする支援についての定期的な検証・実施
- 行事の担い手を確保し継承するため、市民全体の祭りとして伝統文化を保存していくことのできる取組みの検討
- ☆市民の誇りと連帯感の醸成につながる、地域に根差した文化活動の維持と歴史資源の保存・活用
- ☆高校生・大学生などの若い担い手の参加と、文化活動を通じた多世代交流
- ☆元気な高齢者等が担い手として活躍できる場とすることによる文化活動の維持

② いつでも自己表現できる場がある魅力的なまちの創出

- 魅力ある芸術・文化事業を行い、広く市民に親しまれる場の醸成
- ☆既存施設や商店街の空き店舗などを活用した身近な空間での文化発表の場づくり
- ☆幼少期からだれもが芸術・文化に触れられる機会の確保
- ☆まちかどコンサートやマルシェなど、市民が音楽やアート作品を身近に感じる芸術・文化イベントの実施や支援の充実

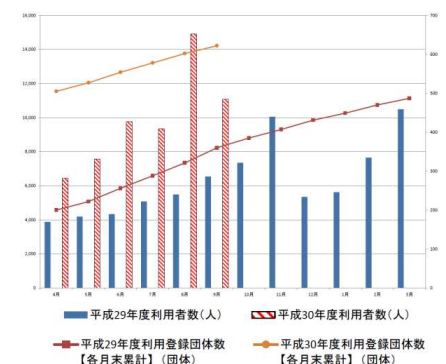
③ 文化が根付くまちとしての戦略的な情報発信

- 関係機関との連携を行い、様々な機会をとらえて市内外に向けた文化情報の効果的な発信（四日市音楽コンクール、音楽情報ステーション、文化情報スポット等）
- ☆伝統的な文化や文化財、文化遺産の効果的な情報発信
- ☆誇りを持って市の内外に勧めることができる伝統や文化、地場産品の再発見
- ☆「市民全員文化人」という意識づくりによる情報発信力の強化

（1）四日市 JAZZ FESTIVAL



（2）三浜文化会館 利用状況の推移 （平成29年4月～平成30年9月）



基本目標5 心豊かな“よっかいち人”を育むまち

政策分野（教育・文化・スポーツ・生涯学習）

基本的政策3 スポーツを通じた元気なまちづくりの推進

現総合計画における主な実績・成果

本市では、約1,400もの数多くの団体によって、草の根的にスポーツ活動が行われておりますが、各地域において地域ニーズにあったスポーツの振興を図るため、各総合型地域スポーツクラブが実施する自主事業やウォーキングイベントといった委託事業の実施等により、各クラブの自主自立に向けての支援を行いました。

また、ロゲイニング大会の実施、東京2020オリンピック・パラリンピックに向けたカナダ体操チームの事前キャンプ地の誘致をはじめとした市内外に情報発信できるスポーツイベントの実施及び誘致を行うとともに、平成30年度の全国高等学校総合体育大会と2021年の三重とこわか国体・三重とこわか大会に向けて、霞ヶ浦テニスコート、中央緑地フットボール場の整備など戦略的かつ効率的な施設整備を進めました。

（1）霞ヶ浦テニスコート、中央緑地フットボール場の供用開始（平成30年5月～）



（2）カナダ体操協会との親善



（3）ファミリーロゲイニング大会

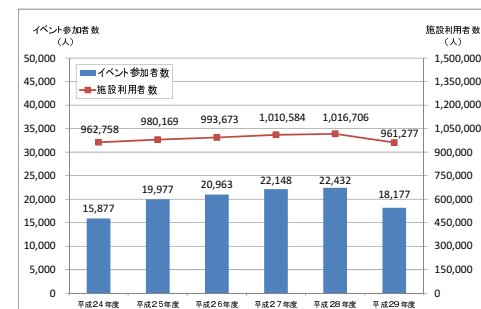


・平成26年度からスタート

次期総合計画策定に向けた主な検討課題

- ① 身近な場所でスポーツを楽しむことができるまちづくり（スポーツを「する」視点）
 - 子どもがスポーツに親しむためのきっかけや、様々な競技に触れる機会の創出により、子どもの可能性を引き出す取組みの検討
 - 総合型地域スポーツクラブの維持、広域化などへの支援や、新規立ち上げへの支援
 - ☆世代を問わずにスポーツを楽しむ、スポーツを通して健康寿命の延伸を図るための健康づくり、介護予防と連携した施策の検討
 - ☆競技力の向上を目指したトップレベルの指導者及び選手による教室の開催
 - ☆ウォーキング大会など既存イベントの充実も含め、市民がスポーツに親しむきっかけとなるスポーツイベントの充実
 - ☆普及啓発をはじめとした障害者スポーツへの支援の実施
- ② スポーツを通じたまちの活性化（スポーツを「観る」視点）
 - 三重とこわか国体・とこわか大会に向けて整備した大規模施設を活用した大会誘致
 - ☆トップレベルのプレーを観る機会の創出
 - ☆地域に根ざしたスポーツチームの育成支援など、スポーツを観戦・応援できる体制づくり
 - ☆eスポーツの施策への活用可能性の検討
- ③ スポーツを楽しむための環境整備（スポーツを「支える」視点）
 - 定期的な点検・修繕や、老朽化した施設・設備の更新など既存スポーツ施設の整備・改修
 - ☆市民が身近な場所でスポーツを楽しむことができる地域スポーツ拠点の充実
 - ☆予約システムの利便性向上など既存スポーツ施設の利用促進
 - ☆選手の競技力向上や、市民がスポーツを楽しむための指導者の育成・充実

（1）スポーツイベント参加者数とスポーツ施設利用者数 （2）新体育館完成予想図



・平成32年5月供用開始予定

基本目標5 心豊かな“よっかいち人”を育むまち

政策分野（教育・文化・スポーツ・生涯学習）

基本的政策4 コミュニティの維持・充実と生涯学習の推進

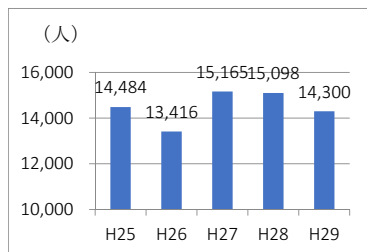
現総合計画における主な実績・成果

人口減少や高齢化の進行により、地域コミュニティの果たす役割がより一層重要になることから、自治会等の地縁団体の活性化や担い手育成のための支援を推進するとともに、市民活動団体の育成・強化に向けて、なやプラザや地区市民センターにおいて生涯学習機会の充実に取組みました。

こうした取組みと併せて、多文化共生のまちづくりを進めることにより、市民力や地域力の向上に努めました。

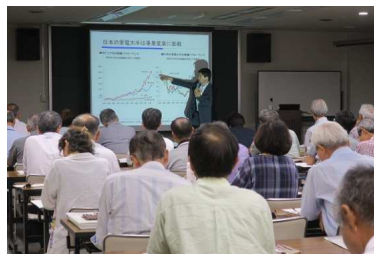
また、市民ニーズに合った図書館づくりを進めるため、資料や情報の提供機能の充実を図るとともに、閲覧・展示スペースの拡充やバリアフリー化に取組みました。

（1）地区市民センター年間利用者数



※平成27年度から楠地区市民センター利用者分を含む

（2）市民大学一般クラス 授業風景

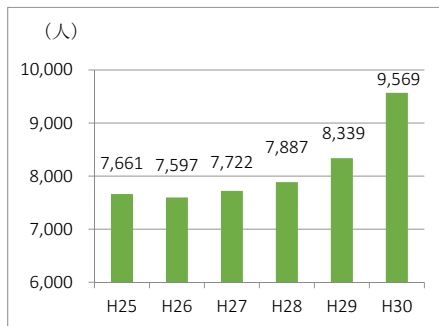


（3）市民協働ポータルサイト 「ツナガルよっかいち」



・平成29年3月開設

（4）四日市市における外国人人口の状況 （平成30年10月31日現在 9,569人）



※平成25～29年度は各年度末現在の数値

次期総合計画策定に向けた主な検討課題

① 地域のつながりを大事にしたコミュニティの強化

- 平成32年度自治会加入率90%以上の目標に向けて、引き続き加入促進に係る周知・啓発が必要
- 地域課題解決に向けた、補助金の効果的な活用の促進
- 地域事情に即した自主事業や、コミュニティのさらなる活性化に向けた取組みの展開
- 効果的かつ時流に即した各種事業の情報発信方法の検討
- ☆地区市民センターにおける相談機能の強化

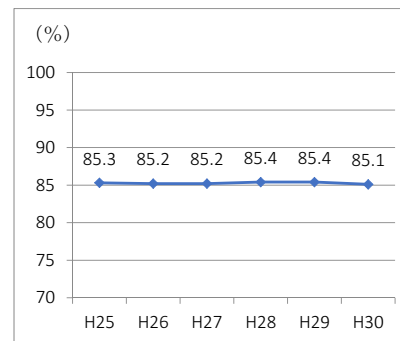
② 地域の未来につなげるダイバーシティ（多様性）の推進

- 多文化共生モデル地区以外に居住する外国人市民の孤立を防ぐ継続的な取組み
- ☆外国人市民の日本語学習サポートなど、増加が予想される外国人市民のニーズを踏まえた対応
- ☆多様な価値観を認め合える社会につながる教育

③ 人生100年時代を楽しんで生きるための生涯学習機会の充実

- 幅広い世代が参加しやすくなる、地区市民センターでの生涯学習事業の実施
- 市民ニーズに合致した新図書館の建設と、あさけプラザ図書館、楠交流会館図書室と市立図書館との連携機能強化
- ☆いつでも誰でも学ぶことができる学習機会の充実と学んだことを活かして活躍できる社会を実現するための環境整備
- ☆社会人のスキルアップ、定年後の生き方を変えるための学び直し
- ☆防災・交通安全など自分の命を自分で守るための意識づけ
- ☆ビジネス、市民協働、教育、文化、スポーツ分野との連携

（1）自治会加入率の推移



（2）多くの外国人市民が参加した「みんなの防災セミナー」訓練風景

